

杉並第三小学校の学校関係者・通学区域内居住者との意見交換会

〈意見交換会開催日時〉

平成 22 年 11 月 5 日(金)19:00～

● 1. 適正配置について

No.	当日の主な質問	区教育委員会の考え方
1	案1・2とした理由はどのようなものか。	杉並第四小と高円寺中の小中一貫教育を平成 19 年から試行的に取り組んでいます。これによって杉三小と杉八小の児童からは高円寺中に行きづらいつとの声も出ています。そのような背景もある中で、小学校と中学校の通学区域を前提に、小中一貫教育の取組の実践しやすさ、町会のつながりなどを踏まえて、高円寺地域全体の学校の再編計画案を作りました。
2	大規模校にはどのように対応していくのか。	地域によって子どもの人口増減にばらつきがありますので、平成 25 年度までは、著しく小規模校化が進んだ学校を中心として、適正配置を進めることとしています。大規模校については、平成 25 年以降に人口動態予測を見極め、対応していく予定です。
3	財政的なことで適正配置を進めるのは納得できない。教育にはもっと経費をかけるべきである。	適正配置は、児童・生徒の交流活動・学校行事、学習環境など、教育的な観点から、望ましい教育環境を整えていくために学校適正配置を進めており、財政面を優先して適正配置を進めているではありません。
4	小中一貫教育を行わない学校も残すべきではないか。高円寺中と高南中で一貫教育を行われると、高円寺地域には一貫校に進学するしかなくなってしまう。	杉並区小中一貫教育基本方針では、全ての小中学校でその学校に応じた小中一貫教育を実施することとしています。ただし、すべての学校で小学生と中学生が一緒にの校舎で学校生活を過ごす施設一体型の小中一貫教育校を設置するわけではありません。
5	一部では、「杉三小がなくなる」、「杉八小がなくなる」といった噂が流れている。「なくなる」という表現はふさわしくないと思う。なくなる学校には誰も行かせたくないと思う。	各学校で色々な交流等が行われていますので、どの学校でも同様の教育環境を確保できると考えています。その中で、どこの学校をなくすということではなく、高円寺地域の中に新しく地域のシンボルともなるような、安心して通いたいと思えるような学校を作っていきます。
6	今回のプランでは、杉三小と杉八小はなくなると考えてよいのか。	

7	杉三小がなくなるのかイエス・ノーをはっきり言ってほしい。	
8	他校の意見交換会においても、本日の意見交換会でも適正配置には否定的である。皆が、この取組みに反対すれば白紙に戻るのか。	学校適正配置及び小中一貫教育の基本方針は、区民の皆様からの意見を聞いたうえで、区として定めたものです。それぞれの地域で様々なご意見をいただいていますので、これらを総合的に考え、今後進めていきたい案を提示させていただき、質問・意見に応えながらご理解いただくよう努めていきます。
9	本日は、反対している出席者が多いことをしっかりと受け止めてほしい。	
10	この意見交換を経て、今後、どのように意見を収束させていくのか。今回の意見をどのように反映させていくのか。	
11	高円寺中は環七通りからの排気ガス等の影響を考えて、二重窓にして、エアコンを設置している。あまり良い環境ではない中で、6歳の子どもが学ぶことは望ましくない。	高円寺中が建てられた頃と比較し、環七通りの大気汚染は減っています。新しく学校を建てる場合には、空気の流れや日影などを踏まえて配置計画を行います。また、防音対策とともに、環境にも配慮していきます。
12	震災時の避難場所について、どのように考えているのか。	基本的には、新たに設置する統合校を震災救援所とする予定ですが、学校の跡地の状況や地域の方々の要望等により、今後どのようにしていくかも検討していきます。

●2. 小中一貫教育について

No.	当日の主な質問	区教育委員会の考え方
1	小中一貫教育のメリットを説明してほしい。	小中一貫教育は継続的・連続的な教育により、生涯の基盤づくり、心豊かな人間形成を目指すものです。小学校では、中学校を見据え、基礎・基本を定着させ、中学校では、小学校の成果・財産を確実に受継ぎ、更に伸ばしていきます。保護者は、身近な児童・生徒の成長の過程を見ることで、子どもの成長の見通しが立つものと考えます。
2	中学校への入学には、成長のために乗り越えなければならない壁がある。小中一貫教育校になると、そのステップが無くなってしまわないか。	成長していくうえで、一つの壁を乗り越えることは重要なことです。しかし、中学校入学時の心理的負担等がかかりすぎることにより、それを乗り越えられずに、不登校等の課題を抱えてしまう子どもたちもいます。成長の節目を大切にしつつ、連続的な指導ができるよ

		うにしていきたいと考えています。
3	中1ギャップという言葉は初めて聞いたが、どのようなもので、どのような対応を考えているのか。	学術的な意見は色々ありますが、小学生から中学生になると、学習や生活の変化になじまず、授業についていけなくなったり、不登校になったりすることが「中1ギャップ」といわれています。義務教育9年間で、小中一貫した教育の中で、生活や学習の様々な課題を解決していこうと考えています。
4	小学校でも教科担任制を実施して授業を行うのか。	全ての教科ではありませんが、小学校における教科担任制について、研究を深め、効果的な教科について実施する考えです。その他、特定の単元について小中学校教員によるチームティーチングを通して、より子どもの興味・関心を育んだり、深く学んだりする指導など、様々な形が考えられます。
5	小中一貫教育校となった場合には、現在の小学校・中学校の教員配置基準よりも多くの教員が配置されることになるのか。	公立学校の教員は東京都が採用し、各区に配置しているため、基準を超えての配置は難しくなっています。しかし、杉並区では区独自に教員を採用していますので、この区費教員等を活用しながら、小中一貫教育を進めていきたいと考えています。
6	公立の小中一貫教育校に、力量を備えた教員を重点的に配置することができるのか。	また、どちらの教員についても、しっかりと力量形成を図っていくよう研修等を行っています。
7	9年間異動しないような教員配置が可能なのか。	東京都の異動基準においては、9年間という同一校在籍年数は非常に長い年数となります。小中一貫教育に関する教員の配置については、必要に応じて東京都と調整していきますが、小中一貫教育は、1人の教員が指導を続けるのではなく、それぞれの教員が個々の児童・生徒について9年間を見据えて指導していくことに意義があるものと考えています。
8	学校行事では、小学校と中学校それぞれに適したものがあるので、一緒に行うことは難しいものが多いと思う。	学校行事をすべて一緒に行うことは考えていません。先行実施している他の自治体の例などを参考にしながら、一緒に実施するほうが効果的なもの、別にすべきものなど、小中学校の発達段階や実態に応じた形で工夫しながら実施していきたいと考えています。
9	小中一貫教育校に入学した場合、中学校卒業まで通わなければならないのか。	品川区等では、9年間で4-3-2年、あるいは5-4年というような分け方をしていますが、杉並区では学習指導要領に応じた6-3制を維持して、小中学校の接続を滑らかにするために進めていきたいと考えています。 このため、中学から他の区立中学校や私立中学校へ進学すること

		は可能です。
10	新泉・和泉地区では、小中一貫教育を行っている和泉中への進学者が非常に少ないと聞かすが、そのことをどのように捉えているのか。	私学志向の強い地域ということもある上に、小中一貫教育試行の前から生徒数の減少傾向にあったこと、部活動を実施したい生徒が他の公立校への進学を希望したことなど、さまざまな要因により進学者が少なくなっております。 小中一貫教育にしっかりと取り組み、魅力を高める施策を展開していきたいと考えています。

● 3. 学校希望制度について

No.	当日の主な質問	区教育委員会の考え方
1	地域との関わりが希薄になることから、学校希望制度には反対である。適正配置を進めるのであれば、希望制度をやめ地域の学校に進学するようにしてからではないか。	学校が魅力ある教育活動を積極的に行い、開かれた学校づくりを行うために学校希望制度を取り入れました。 現在では学校支援本部(22年度で全校設置)や学校運営協議会という形で、地域の方々に学校に関わっていただく中で、開かれた学校づくりは十分進んできているものと認識しています。そこで、今後、検討会を設置し、保護者の方々からのアンケートなどを基に、制度の検証・見直しを行っていきたいと考えています。
2	新たな学校を設置しても、学校希望制度がある限り、同じことが繰り返されると思う。	
3	杉三小は、この地域で一番歴史の長い学校である。地域の子は皆で一緒に同じ学校に通って欲しいので、学校希望制度には反対である。	
4	学校希望制度を残したままで、地域の核となる学校づくりができるのか。	
5	学校希望制度が廃止されれば、どの学校でも一定の規模を確保することが可能になるのではないか。	区内の児童数は、昭和54年の約38,000人をピークとして、平成22年度は半数以下の約18,000人となっています。 高円寺地域を例にすると、現在の通学区域内の子どもの数は、杉三小は各歳50名から60名程度ですが、杉四小では各歳40名程度となっています。このうち、杉並区の場合、約10%の児童が国立・私立の小学校に入学しますので、学校希望制度を廃止しても、すべての学校が一定の規模を確保することは難しいものと考えています。

● 4. その他

No.	当日の主な質問	区教育委員会の考え方
1	公立学校では、教員の異動などにより部活動などで一貫した指導が受けられないのではないか。	公立学校の部活動は、教員の異動などにより廃部になってしまうことがあり、課題となっていますが、今後は、学校支援本部など、一層地域の方々の力をお借りしたり、外部指導員を充実させたりして、一貫した指導が行えるよう努めていきます。
2	学校がなくなると、地域の教育力が下がる。	現在の学校の通学区域内のみではなく、新しい学校の通学区域を一つの地域と考え、多くの方々に学校に関わっていただき、高円寺地域全体の教育力を高めていきたいと考えております。
3	習熟度別の少人数指導は、子どもたちを差別している。	習熟度熱学習は、個々の児童生徒の習熟度に応じた授業を行うことにより、それぞれの児童生徒の学力の着実な定着を図るために実施しているものであり、子どもたちを差別するものではありません。
4	現在、杉三小内に設置されている特別支援学級は、どのようになるのか。	特別支援学級につきましては、新しい学校づくりの計画に合わせて区内全体の配置の中で対応していきます。
5	杉三小の周辺は、岩盤が強固であり、地震等にも耐えられることを承知しておいてほしい。	地盤等の調査も実施し、安全な学校づくりに努めます。